

裏毛皮は無し

——瀧田菊江さんへの返事——

宮本百合子

青空文庫

この間の邦語訳の椿姫の歌うなかに、この受取り（でしたか、書きつけでしたか）を御覧下さいということばがあつたが、それが日本語で歌われるといかにも現実感がありましたが、昨今ではそのうたをうたうプリマドンナの腕も、ステージ用のトランク運びで遅くなるとは面白い世の中ですね。

ガソリン払底は、なるほど、郊外の奥にお住居だし、お仕事の関係上、直接でしょう。でもあなたのハンド・バッグのなかは豊富で、汽車がひっくりかえったときの内田さんのように、いくらでもとおっしゃるとすれば、マア豪勢みたいなものではないの。

私の方の状態は、先ず大笑一番しなければ、ものも云えないような有様だね。おかしいでしょう。八面六臂的欠乏で困ります。原稿紙というものが、この節ではなかなか只ごとにならないものになって参りました。何しろちり紙から心配という次第ですから。こんなさっぱりと四角い紙に気持よく朱の線の通っている原稿紙がやがて、昔話になるかもしれませんね。

炭には困るわ。あなたのお仕事は羨しいと存じます。だって一心に練習なさっていると、舞台にいらつしやるとき、云つてみれば寒さ知らずでいらつしやるでしょう。私たち

のように凝つと机にかじりついているものは、冬は炭のいるのを気兼ねしいしいというのでやり切れないところがあります。第一に手がかじかんで、私のこの一カ月継続中の風邪のもととは、つい炭が途切れかかったときの記念です。

それにつれて、昔芥川龍之介の書いていた支那游記のなかのことを思い出します。或る支那の文人に会いに行ったら、紫檀の高い椅子卓子、聯が懸けられたまるで火の気のない室へ通された。芥川さんは胸震いをやつと奥歯でくいしめっていると、そこへ出て来た主人である文人が握手した手はしんから暖く、芥川さんは部屋の寒さとくらべて大変意外だったそうです。

どうしてそんな手をしてこの火の気のない室に莞爾としていられるのかと、猶も胸ぶるいをこらえつつ観察したら、その文人の長上着の裏にはすっかり毛皮がつけられていたそうです。私たちも、そんなあんばいにやりとうございますね。

全くあなたがお丈夫でもトラツクなしではすまないように、私が意気壮でも、手はかじかみましてね。歴史をひもくとく、燃き物と紙の有無とは、常にその社会生活の一般状態を雄弁に物語っているようです。作家の思ひは、原稿紙がなくなればどんな紙切れへでも、その紙切れへものをかくような時代の作品を書こうと思っているのでしょう。歌をうたう

かたは、唱って寒さもふきとばそうと思っていらっしゃるでしょう。そこがそれぞれ面白いところですね。けれども、どうぞ喉はくれぐれお大切に御活動下さい。

〔一九三九年十二月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第十七巻」新日本出版社

1981（昭和56）年3月20日初版発行

1986（昭和61）年3月20日第4刷発行

底本の親本：「宮本百合子全集 第十五巻」河出書房

1953（昭和28）年1月発行

初出：「読売新聞」

1939（昭和14）年12月29日号

入力：柴田卓治

校正：磐余彦

2003年9月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

裏毛皮は無し

——瀧田菊江さんへの返事——

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 宮本百合子

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>